

おはようございます。今回は、伝統と革新の色濃いこのベニス国際大学のキャンパスで第20回の会合を持つことが出来、ザッパ会長、福原会長始め事務局の方々の御尽力に厚く御礼申し上げます。

それでは、一言ご挨拶申し上げます。

そもそも、歴史とは変化の連続であります (Continuous transformation)。この変化に挑戦出来ぬ者は、歴史の舞台から退場せざるを得ません。この挑戦において良き伝統を守り継承し、革新のイノベーションを日伊協力して進めることが、今回の主要テーマであります。その目的とするところは、36年前にオリベッティのペッチェイ氏のローマクラブが取り上げ、今や国際的問題化している環境対策にも充分配慮し、持続的でスマートな成長 (Smart growth) を実現し、雇用を創造、物心両面でも質の高い社会を実現することであり、これはまた日伊双方の喫緊の国家的課題でもあります。

ここで私は、率直に西欧近代文明の扉を開いたイタリア・ルネッサンスの精神に学びたいと思います。即ち、ルネッサンスはレオナルド・ダ・ヴィンチを頂点とする innovative engineers の集団に支えられていた側面も強く、彼らは芸術にも親しみ、美意識と感性の豊かな人格でありました。古代ギリシャやローマでは、芸術と科学技術は「テクネー」と呼ばれ、同じジャンルに属しイノベーションには美意識の感性も重要な要素であることを物語っております。ダ・ヴィンチ村の博物館で拝見する黄金比の発見、土木建築のみならず、飛行体の発明等、科学技術に造詣の深い御仁が「モナリザ」や「受胎告知」、「最後の晩餐」の名画を残された秘密が解るような気がします。将にこれがテクネーの伝統なのでしょう。また、私はボッティチェリの「ビーナスの誕生」の自由でダイナミックな構想に時代を超えたルネッサンスの魂を感じます。それらの分明史的背景には、イタリアという舞台でギリシャ/ビザンチン文明、アラブ/イスラム文明、ラテン/キリスト教文明という異質の三大文明がぶつかり合い、そして調和し、最終的には「人間賛歌」のヒューマニズム、即ち人間性尊重の普遍的な新しい価値観を創造したダイナミックで生々しい歴史があったからだと思います。これが民主主義の根幹となっていきますが、現代の多元的なグローバル化の時代にも必要とする価値観となっています。

一方、日本は地政学的にユーラシア大陸の東端のターミナルアイランドであり、文化・文明の発展過程で概ね西からの影響を受けてきましたが、日本人の精神の古層に執拗に繰り返される通奏低音 (Basso Ostinato) の伝統的美徳、即ち、天然との共存、生きとし生けるもの皆平等、武士道のノブレスオブリージェ、恥の倫理、質実な生活観と労働観、労使の協調、高度の美意識等の上に西からの影響を日本化 (Japanize) して来たユニークな歴史的/文明史的体験を持っています。イタリアと同様、多元的なものを融合させる努力 (Harmonization) を通じ、感性を磨き、現場にこそ真理があるという現場重視の物づくり(技術力)の理念が生まれた訳です。

このように見ると、両国の文化的特性は、お互いに共鳴 (エコー) し合えるものであり、日本の現場重視の技術力と、イタリアの創造力、デザイン力、アイデア力をドッキングさせれば、大きな「イノベーション」力となる可能性が強いと思います。

以上のような大勢観察を踏まえて、経営についての基本的な私の考えを申し上げます。

思います。私は、経済と政治の最終的な目的は、道徳と文化を実現することにあると思っています。しかるに現状は、道徳的規律のない自由放任のレッセフェール型の市場主義とIT革命に伴う virtual society の拡大、家族や地域社会の絆の弱体化等により、世界的に人間性を疎外する風潮が蔓延しているのではないのでしょうか。私達は、あの素晴らしい人間性尊重のイタリア・ルネッサンスの魂に戻る必要があります。

そのためには、思考の上で基本に戻り、第一に的確な時代認識を持ち、第二に追求すべき価値を見定め、そして第三にその価値実現のために処方箋を作成し実行することです。

第二の価値については、先ほど申し上げた両国の文明史的体験からして、多元的なもの、調和 (hamonization)、思いやりの精神 (compassion)、道徳的規律をもった市場主義、そして、家族と地域社会の善意ある絆の重視という4つの良好なバランスが必要だと思います。ルネッサンスの精神に通ずるものがありますね。そして、その価値実現の処方箋において、重視されるべきは、雇用の創造と確保 (Job creation) そして人々の生活の物心両面における質の改善 (Quality of Life) であり、それを支えるものは、やはり人間性の尊重と長期的視野に立つ経営であります。そして、長期的といえ、何と云っても教育が国家的課題としても極めて重要となります。幼年者から高齢者に至る社会の皆が学習する学習社会 (Learning Society) を実現し、社会の一員としての義務と責任を明確にする市民道 (Citizenship) の確立を追求すべきでしょう。ここにもルネッサンスの精神がよみがえってきます。

このようにして、両国間の経済関係の拡大と、その基礎になる相互の文化 / 文明理解を、あたかも車の両輪として推し進め、ルネッサンスの人間讃歌の心を、両国の戦略的パートナーシップの基軸にすえて、今回の会議を進めて戴きたいと希望します。

ご清聴有難うございます。(Molte grazie モルテ グラッツィエ)